

第1回安平町新しい学校を考える会議事録

○日時：令和元年6月11日18時30分～20時00分

○場所：町民センター 集会室

○出席者：参加者18名 教育委員会7名

○内容

1. 教育委員会事務局より挨拶(教育委員会 次長)

みなさんこんばんは。お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。これまで早来中学校の再建につきましては、皆様にご協力いただきながら進めさせていただきました。この新しい学校を考える会では、色々な意見をいただいて参りました。しかしながら再建の日程が1年ほど延期になるということがございまして、このあと経緯を説明させていただきたいと思います。

まず去年の地震によって、早来中学校が建物も敷地も大きな被害を受けたため、既存の場所に建て直すということではなく、移転をして再建していきたいと考えて参りました。移転先に関しては通学環境確保の問題、学校の機能確保などを鑑み、早来小学校の周辺が候補地として適切であろうという調査結果になりました。しかしこれまでのように、中学校の広い敷地を確保できない、土地の利用方法や小学校の老朽化の関係、改修費用面が膨らむという状況を総合的に見ていった結果、小中一体化で学校を建てるのが良いのではないかと考えておりました。そして小中一体校舎の建設を目指す中で、近年学校教育の流れの中で建設が始まっている、義務教育学校という制度の導入が高いメリットがあるという調査結果があり、この制度についてこれまで説明会で説明しながら、町民の皆様と一緒に考えていこうというのがこれまでの流れでした。ただし、この義務教育学校の説明などを含め、色々わからないことが多いというご指摘もいただきました。そうした中、住民監査請求ということもあり、平成31年度の当初予算で確保できた基本計画等の作成の予算が執行できずに、1年建設計画が延期になるということになりました。報道等で白紙に戻したという情報になっておりますが、これまでの説明会や新しい学校を考える会等で考えた内容は調査資料としてまとめたものがありますので、こういったものを生かしながら学校再建を進めていきたいと考えております。これからは教育委員会が招集をかけて新しい学校を考える会を主催して、きちんとした正式な形でワークショップ運営していきます。審議会につきましては、事前に6月5日に早来地区のコミスクの委員様をお呼びしまして、合同という形で実施させていただきました。今日の新しい学校を考える会は、実際にこれまでこの会で話し合う中で作り上げた調査資料を用いて、ある程度テーマを決めて活発な意見交換をして、町民の声として学校の再建に結びつけられればと思っております。これからは全体的な町の予算、財源を調整し、これまでの内容を精査しながら、再建を現実化させていきたいです。このあたりをご理解していただいた上で、考える会でご意見をいただいで、本当の良い学校づくりに反映させていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。以上、これまでの経緯ということで、挨拶を兼ねまして説明させていただきました。

2. これまでの経緯、考える会の位置付けと役割(総合教育専門員 井内)

前回までの考える会については設置主体また議論の責任等々が明確になっていないところがありましたので、これを改めて明確にいたしました。第2条にあります安平町まちづくり基本条例第12条に規定するものをベースにしながら町民参画推進条例によるワークショップとして新しい

学校を考える会を位置付けました。目的は地域住民と一緒に広く考え、意見を交わして学校づくりに生かすという趣旨に賛同する者が参画して取り組むというものです。第4条に構成がありまして、保護者、地域住民、その他趣旨に賛同する者であればどなたでも参加できるという形になっています。ただしそうすると、毎回ワークショップに参加する人が入れ替わって落ち着かないのではないかという意見もございますので、第5条のところに7名程度を常任委員として選出するというようになっております。7名程度の方は継続的に参加していただいて、前回の議論を引き継ぎながら進めていきたいと思いますということになりました。よって今までの学校を考える会は代表者等いませんでしたが、今度はその常任委員を7名選出し、その7名の中から代表と副代表を選んでいきたいと思えます。事務局に関しては教育委員会がこれにあたります。第10条のところに会議の参加というのがありますが、趣旨に賛同する者の参加を妨げないとありますので、常任委員7名はいますが、それ以外の方でもどなたでも参加してください、広く保護者住民の意見を聞きますという形です。そうすると傍聴という参加の仕方はこちらとしては考えておりません。来た時には必ずワークショップに参加してくださいというスタンスで進めていきたいと考えております。ではこの会は何をするのかというと、教育委員会からの案に対して具体的な意見をこの場でどんどん出してもらおう。そういった会議です。最終的には教育委員会で決めるのですが、もうひとつ審議会という位置付けとして合同学校運営協議会というものもありますので、そちらでも審議をいたします。集まるのは大体月に1回くらいのペースです。学校選択制に関してはこれとは別に会議をしていきます。学校再建の案ですが、今の段階では小学校の隣に土地を取得して中学校のみ建設する案、老朽化する小学校と合わせて小中一体の校舎を建設するという案、このどちらかの案で進める予定です。そして全部で3つの会議体をもって話を進めていきます。例えば教室をどうしたら良いのだとか、学校生活をどうしていったら良いのかという話に関しては、やはり学校の先生に聞くのが一番なので教職員検討会を使って話を進めていきます。色々な意見やアイデアを出してもらおう場所に関してはこの学校を考える会で。そしてその意見を反映したものを最終的に検討して審議していくところが合同学校運営協議会。この3段構えで進めていきます。なので、1つの審議会で進めるのではなくて、先生方だけの意見で進めるのではなくて、保護者や住民、興味関心ある方などの意見を幅広く拾っていきながら再建を進めていきたいと考えています。

(学校再建を考える上での背景知識として日本の社会状況や教育について解説)

(これまでの考える会の議論において策定された新しい学校のコンセプトについて解説)

(教育環境研究所の野島様よりご挨拶)

4、参加者の自己紹介

それぞれ参加者の方から自己紹介、学校に対する課題と期待を述べてもらいました。

5、ワークショップ「地域とつながる学校のあり方」

(総合教育専門員 井内)

話す内容は小中一貫が良いか、義務教育学校が良いか、どこに建てるのかではなく、「地域とつながる学校」で進めたいので、地域も使える学校にしたい。なぜなら今から建てる学校は50年使う予定です。予算も多くここに注がれるはず。だからこそ安平町みんなの学校にしたいということで、それに対して今の段階でどのような意見をお持ちなのかお聞かせください。

(教育環境研究所 野島)

補足をさせていただきます。次回以降に私どもの方から具体的な施設の提案をします。その提案の元となる意見を今日お聞きしたいと思います。当然これまでの調査資料も参考にしたいと思いますが、今日の意見も参考にします。具体的に聞きたいことは、まず1つが安平町ならではの教育資源はどういったものがあるのか。人でも環境でも両面あると思いますが、これからの新しい学校の計画に生かしていきたいというものがあれば教えていただきたいです。また、学校施設は複合施設です。家庭科室や体育館など色々なものがあります。そういった施設を地域住民としてどのような使い方がしたいか。また、使う際にどういうことが課題かなどについてご意見をいただければと思います。最後に簡単に各グループに発表していただきたいと思いますので、発表者を決めてください。お願いします。

(各グループで20分程ディスカッションが行われました。)

(発表)

グループ1：最初に出たのが、疑問点でした。仕切り直しにして義務教育学校を前提として進めるのではなくて、中学校再建を進めるという目的に立ち返りましょうという話があったかと思うのですが、議論が義務教育学校ありきのように感じます。義務教育学校を目指しているのか、中学校再建を目指しているのか、実質的なゴールが見えない中での話し合いが難しいということになりました。次に安平町の教育資源としては、文化的な面で音楽だったり、スポーツだったり充実していると思います。また、自然で川や森などがあるという部分、位置として国際空港に近いということ、港に近いということ、そういった交通の面での資源もあるという話になりました。人については色々なスポーツや文化活動している人はいるので、そういった方の発掘に力を入れていくべきだという話になりました。学校の有効活用に関しては、もし学校を地域の学校として町の中心に置くとするならばバス停などの利便性などの整備もしていけると良いのではないかとこの部分で話は終わりました。

グループ2：今挙がっているスタイルというよりは、もっと違う視点で考えました。安平町全体に中学校が2つ必要なのだろうか。小学校が何個も必要なのだろうかという議論が出ました。もっと人口減少していった先で学校維持するのは大変だろうなということ、将来大きくなった子どもたちに負担を背負わせてしまうことになるのではないかと、など話になりました。仮に中学校が1校になったとしても3年後に自動運転のバスが入ってくるのであれば、通学などで困らず、無人のバスで通えば良いのではないかとこのことも考えました。とにかく、安平が早く元気になれば良いなと思っております。

グループ3：まず安平町の資源ということでスポーツが盛んで、長く続ける子が多いということ。それに対しては、意識が高いからではないかという話が出ていました。ふるさと教育、学社融合は他から異動してきた先生に素晴らしいと言われているそうです。施設の有効活用についてですが、足湯があったら良いなとか、地域が利用しやすいものがあったら良いな、放課後に家庭科室を使ってみたい、子どもを見守りたい、お節介なおじちゃん、おばちゃんが増えたら良い、高齢者が出入りしやすいサロンのような場所になったら良いな、給食を食べにいけたら良いな、カフェテリアみたいなものがあると良い、地域の人に関わることは子どもにとってもセキュリティになるのではないかとこの話が出ました。

グループ4:今年のうまかまつりから毎年やってきた小学校の鼓笛隊の発表会がなくなったそうです。そうなってくると、鼓笛隊を一生懸命やってきた子どもたちの発表する場が運動会や学芸会しかなくなり、やる気が低下するのではないかという話が出ました。なので、小学校も中学校もふくめて、きちんと発表ができるような学習発表会ができるような場とスペースがあると良いという意見がありました。陶芸教室のような、住民が講師となってやっているような授業を学校でも織り込むなどをして良いのではないかなども意見として挙がりました。しかしながら、まずは子どもたちに必要な学校を最優先して作るべきなのかなという話になりました。また、新たにグラウンドなどは作っていくと費用的に難しい部分もあると思うので、旧早来中のテニスコートや陸上グラウンドなどを修理したりして校舎は使えなくてもそういった部分を使っていければ色々な団体が活動できるのではないかと。また、駐屯地の施設を利用できると良いのではないかとという話になりました。また、早来は昔から馬の町だということですが、実際に触れ合う機会がないので、そういうふれあいの場を何かの形で作れたら良いのではないかとという話がありました。以上です。

(井内)

ありがとうございました。今回はテーマがかなり抽象的だったのですが、次回の考える会は教育委員会が調査資料をベースにして第1案を示したいと思います。どこに校舎をどのように建てたら良いのかということです。場所はどこにするのか、体育館はどこなのか、校舎は一階建てなのか二階建てなのか、駐車場はどの辺なのか、かなり具体的なものです。その際には早来中学校のみの配置なのか、中学校と小学校も合わせたものなのか、これは複数のパターンを示します。こういった教育委員会の提示する第1案について、みなさんのご意見をいただければと思います。

次回のスケジュールですが、7月3日です。時間は同じ18:30からです。場所は町民センターです。次回までの間に常任委員7名を教育委員会から声をかけさせていただきますので、継続して議論に参加していただければと思います。本日はありがとうございました。